

みみタロウ

日本語版 103号 2013年12月

しがけんこくさいきょうかい
滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
おおつし はま 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

Tel/Fax : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : http://www.s-i-a.or.jp

ふうふ づく 夫婦でいちご作り

こんかい たろう えん みぐいひょう かきたり さ ひがしおうみしがいじゅう
今回みみタロウは、「みんなのいちご園 かきた」の副代表をされている柿田リサさん(東近江市在住)に
あくなかかん はなむ
お会いし、暮らしの中で感じてこられたことなどをお話をいただきました。



ねんまえ ふいりびん
13年前、それまでフィリピン
で育てていた子供たちを連れて
おとつ かぞく いっしょ す
夫の家族と一緒に住むようにな
わたり こども あたら せいいかつ
り、私も子供たちも新しい生活
と こ わたし しゅうじゆ
に飛び込みました。私は姑に
おし かじ
教えてもらいながら仕事をする
かたわら家業の鉄工所の仕事を手伝い、中学1年生と
小学6年生だった息子たちは、言葉もわからないまま学校
に通い始めました。息子たちは当初、学校から帰るとごは
んも食べずに部屋に入ってしまうこともあつたりして心配し
ましたが、部活に入ると沢山の友達が出来、それ以来、
ふいりびん かえ
フィリピンに帰りたいと言ったことがありません。今ではそ
の子供たちも大人になり、独立立ちしています。子育ても
終わり、そして鉄工所の仕事も次の世代に任せられるようにな
って、さあ、これから私たちは何をしようかと夫婦で考え
ていた頃、家庭菜園の講座を受講したのをきっかけに、
いちご そだ
イチゴを育ててみることにしました。主人も私も農業の
けいけん まつた
経験は全くありません。周りの人たちから農業はそんなに
あま い
甘くないよ、と言われながらも思いきって始め、もう4年になります。

わたしたちのイチゴハウスは、2棟、6レーン。イチゴ作りは
ねんじゅうさぎょう がつ う かぶ なえ がつ かぶ
年中作業で、3月に植えた40株の苗を5月には400株に
増やし、それをさらに9月には6000株までに増やし、その
なかよなえ えら はうす う つ ふゆ あいだ
中の良い苗だけを選んでハウスに植え付けて冬の間も
しゅうかく づづ はんぼうき ある ばいと たの
収穫を続けます。繁忙期にはアルバイトを頼みますが、い
つも夫と二人での作業。毎日4時頃に起きて、ハウスで
いちご しゅうかく じはん みち えき ひがしおうみし
イチゴを収穫し、8時半には道の駅「東近江市あいとう
まいがれっとステーション」*(2ページ参照)に出荷します。
まふゆ そうちょう さぎょう きび
真冬の早朝の作業など厳しいこともありますが、イチゴ作
りはとても楽しくて面倒と思つたことなどありません。ハウス
たのめんどう おも はうす
に到着すると、イチゴが私たちを出迎えてくれているよう
で、二人で「お早う！」と声をかけたりしています。
ふゆ いちご わたし でむか
冬はイチゴがおいしい季節。是非ご賞味ください。

家族とは、思ったことは胸にためこまずに何でも言い合
っていきます。ちょっとした口喧嘩があつても、いつも2、3日

ほんとう かぞく
で仲直り。そんな日々を重ねることで本当の家族になって
いくかもしません。違う国からやってきた私が夫の
かぞく いっしょ せいかつ
家族と一緒に生活していくようになった時、もちろんいろ
あつれき の
んな転職もありました。それを乗り越えられたのは、夫の
おおやさ なまし ふいりびん
大きな優しさがあったから。私だけでなく、フィリピンの
かぞく ゆうじん たいせつ
家族や友人も大切してくれ、だから私が夫の家族を
たいせつ どうぜん おも
大切にするのも当然だと思えるのでしょうか。別々の人間
ふうふ それがかか
が夫婦になることは、其々抱えているものも一つになると
ひと
いうこと。お互いを大切にする気持ちは、相手だけでなく、
あいて たいせつ ひとびと む しづん
相手が大切にしている人々にも向けられ、自然と相手の
かぞく たいせつ きも
家族も大切にしたい気持ちになるのだと思います。

げんじつ にじょう く なか かてい
現実には日常の暮らしの中、どんな家庭にもいろいろ
とあるでしょう。そんな時、心の深いところに愛情があれば
とき ころ ふか あいぢう
些細なことで腹も立たず、うまくやつていけると思います。
ささい はら た
そしてちょっとしたことで大切に思う人々に喜んでもらえる
じぶん なこ ひざ まわ
のなら、自分が少し譲って周りに合わせることも良いことだと
おも たと かぞく うすあじ りょうり
思うのです。例えば、家族が薄味の料理がおいしいと言う
じぶん こ あじ す うすあじ あじつ よろこ
なら、自分は濃い味が好きでも薄味に味付けして喜んで
もらおうといったようなこと。そんなささやかな心遣いを重ね
まわ ひとびと こころ とじ
ていくうちに、それはいつか周りの人々の心に届き、そし
かえ かぞくかん あたた き も めぐ
てあなたにも返ってきて、家族間に温かい気持ちが巡る
はず。それともう一つ。自分の価値観が絶対ではない、
じかく たいせつ
ということを自覚しておくことはとても大切です。そうすることで、
こころ じうなん じぶん かちかん ぜつたい
心が柔軟になって自身も楽になりますし、周囲の人
こゑ みみ かたむけ おお ひと かんけい やわ
の声に耳を傾けることも多くなって、人との関係も和らぎ
じつ いぜん わたし かな はん しお
ます。実は以前、私は鮒寿司(フナとご飯と塩を合わせて
はっこう しがけん さようぢょうりょう だいきら かぞく よろこ
発酵させた滋賀県の郷土料理)が大嫌いでしたが、家族が喜
しょくたく なら みな いっしょ
ぶので食卓に並べ、皆と一緒に「おいしいね」と言いながら
たべ ほんとう かん ぜつたい
食っているうちに、本当においしく感じるようになったんで
すよ。同じように、人との関係も絶対ではなく、育んでいく
あいて きづか あいて たちば た かんが
ものです。相手を気遣ったり、相手の立場に立って考え方
りかい あ
えたりしているうちに理解し合えるようになって、愛情も深
まついくものだと感じています。

かぞく つむ しあわ たいせつ
家族と紡ぐこの幸せをこれからも大切にしていきたいと
おも
思います。